

■小野忠重 版画家。版画史はじめ、あらゆるもの・ことをおろそかにせず、他者のために、保管し記録し著述し続けた。

おのただしげ

伊藤博文暗殺1909＝ 東京府東京市本所区向島で、\_酒屋の子に生まれる。

明治天皇没・1912＝ 3歳：

第一次大戦始1914＝ 5歳：この年、恩地孝四郎、田中恭吉らが{月映(つくばえ)}を創刊、

本格政党内閣1918＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝12歳：  
絵を描くことが好きで、

護憲三派圧勝1924＝15歳：早くも、{蒼原会}に加入し、{白日会}第2回展に出品、

金融恐慌・・1927＝18歳：早稲田実業学校在学中に本郷絵画研究所に学んで、卒業。絵描きになりたいと思うも、許されず、いろいろ模索しては見るが、結局、家業の酒屋を手伝うことになり、不満が鬱積するなか、

世界恐慌・・1929＝20歳：\_日本プロレタリア美術家同盟主催の第2回プロレタリア美術展に、初めて、油彩と版画を出品、

満州事変・・1931＝22歳：\_3年続けて同展に出品し、プロレタリア作品から出発したが、この年、連作「三代ノ死」を試み、  
五一五事件・1932＝23歳：\*藤牧義夫、柴秀夫らと{新版画集団}を結成して、中心になって書いた設立趣意文には、'創作版画は大衆化が叫ばれている'とある。{新版画}を刊行、十八巻まで続く。

国際連盟脱退1933＝24歳：\_新版画時代の代表作「死を回る人々」「犠牲」、  
芥川直木賞始1935＝26歳：\_その後姿を消す藤牧から風呂敷に包んだ作品を託され、やはり酒屋の子だった柴は、貧しい版画家を助けるべく、自作を止めて、作品を購入することに徹し、のちに、そのコレクションを託されるように、なんでも大事にする性格が皆から信頼される存在にもなる。

二二六事件・1936＝27歳：(新版画集団)を解散し、\_{造形版画協会}を設立。日本版画協会主催の{欧米巡回展}の出品作品に選定され、第1回版画協会賞受賞。

日中戦争始・1937＝28歳：第二次大戦始1939＝30歳：学ぶのが好きで、この年になって、法政大学高等部に入学、

大政翼賛会・1940＝31歳：紀元2600年奉祝美術展に出品、

日米開戦・・1941＝32歳：戦争で、法政大学高等部を繰り上げ卒業すると、のち後妻になる岡山の素封家の娘の協力を得て、\_美術系出版社{双林社}を設立し、「日本の銅版画と石版画」を皮切りに、

・・・・・1942＝33歳：民間団体を統括する{南洋団体連合会}に勤務。「新理念版画の技法」「版画読本」「銅版東海道五十三駅」、

創価学会検挙1943＝34歳：鈴木健夫との共訳で、ヴォラアル著「ドガ」など、\_次々出版し、

年金+総武装 1944＝35歳：\*「支那版画叢考」で中国の美的遺産を称揚し、「マテオ・リッチと支那科学」で中国のふとこの深さを説くなど、大戦中で権力におもねる出版界を批判するような出版までするうち、

敗戦・・・・1945＝36歳：召集されるも2週間で兵役解除となり、後妻の実家がある津山に疎開中、\_敗戦となり、以後雌伏、

極東裁判決・1948＝39歳：日本美術会主催の第2回日本アンデパンダン展に出品してはいる。

独立回復・・1951＝42歳：

自衛隊発足・1954＝45歳：\*東峰書房から「版画の歴史」を出版後、作風を大きく変えて制作を再開すると、

国連加盟・・1956＝47歳：\_初めて個展を開き、ダヴィッド社から「現代版画の技法」、美術出版社「木版画」を出版、

なべ底不況・1957＝48歳：ダヴィッド社から「版画アルバム」出版。第1回東京国際版画ビエンナーレ展に出品、

インストラマン・1958＝49歳：\_ダヴィッド社から、溢れる思いを集約して書き下ろし、日本のくらしの絵の副題を持つ「版画」を刊行、

安保闘争・・1960＝51歳：ダヴィッド社から「版画技法ハンドブック」を出版。「工場」を制作。

タイタイ病始・1961＝52歳：\_ソ連で初めての現代日本版画展に招待され、帰国後、{三彩}に、エッセイ「ソ連の美術館」、{ソヴィエットの日本画}を掲載。史的に綴った岩波新書の「版画」には、近代日本の自画像の副題、

TV宇宙中継始1963＝54歳：\_東京芸術大学版画研究室の講師となる。

東京リボルック 1964＝55歳：\_社会思想社からの「版画」出版と、三度にわたって、版画そのものを語ったほか、

いざなぎ景気1966＝57歳：{みつゑ}に「版画・戦後20年の歩み」を、{東京藝術大学美術学部紀要}に「日本の木版技術と複製」と、

美濃部都知事1967＝58歳：「民衆版画考」を発表し、美術出版社から「日本の石版画」出版するなど、\_さまざまな切り口で語り続ける。

霞ヶ関ビル・1968＝59歳：第6回東京国際版画ビエンナーレ展諮問委員を委嘱される。

大阪万博・・1970＝61歳：装幀に関する研究成果として、{三彩}に「本の美術史」の連載を開始。\_西洋版画についての唯一の著書「西洋職人づくし」を岩崎美術社から出版。

トルショック・・1971＝62歳：ダヴィッド社から「版画事典」、三彩社から「近代日本の版画」、新日本出版社から「版画の魅力」刊行、

日中国交回復1972＝63歳：第7回東京国際版画ビエンナーレ展諮問委員を委嘱される。

石油ショック1973＝64歳：

角栄金脈辞任1974＝65歳：大日本図書から「版画入門」、三彩社から「近代日本の版画」を刊行。

クアランゴール事件1975＝66歳：\_作風が変わったのちの代表作「風」、

JALハイジャック・1977＝68歳：美術出版社から「木版画入門」出版。\_久保貞次郎編「小野忠重版画集」が出版される。東京芸術大学を辞め、

成田衝突・・1978＝69歳：岩崎美術社から「明治の石版画」出版。\_この年出版の「版画の青春」には、「連刊版画集の若ものたち」の章があって、恩地孝四郎らが創刊した{月映}を皮切りに、黎明期の全国の版画誌のリストを掲げ、無名に終わってしまった人たちの軌跡を大事にし、あとがきで、柴が自作を止めたことを悲しみ、

成田衝突・・1979＝70歳：\*紫綬褒章を受章、藤牧義夫の遺作展に、彼から託されていた版画85点を出品するなどはじめをつけ、

・・・・・1981＝72歳：

中曽根内閣・1982＝73歳：

昭和天皇没・1989＝80歳：\_神奈川県立近代美術館で、公立美術館での初の展覧会となる「小野忠重と「新版画」の作家たち展」が開催されたのを打ち上げにするかのように、

ドイツ統一・・1990＝81歳：東京警察病院で、\_肺炎のため没した。

4年後、息子夫婦が、美術学芸員のアドバイスを受け、ボランティアで手伝ってくれる人たちの支えで、東京都杉並区に、おそらくもっとも小さく、分かりにくい場所にありながら、もっとも充実した内容で、心安らぐ小野忠重版画館を開いた。

池内紀「二列目の人生～隠れた異才たち～」, Wikipedia,